平成２９年度　病害虫発生予報　第４号

平成２９年７月２１日
栃木県農業環境指導センター

○水稲の斑点米カメムシ類の発生に注意しましょう！
○ハスモンヨトウ・タバコガ類の発生に注意しましょう！

予想期間７月下旬～８月下旬

予報の根拠で、（＋）は増加要因、（－）は減少要因を表す。

１　水稲　いもち病

（１）発生予想　　発生量：**平年並**
（２）根　　拠　・現在の発生量は平年並（平年比87.3％：ほ場率、平年比31.3％：株率）。（±）
・BLASTAM（葉いもち感染好適日条件）では、7月上旬に感染好適日が断続的に見られた（7月21日現在）。（＋）
・向こう１か月の平均気温は高く、降水量は平年並。（－）
（３）対　　策　・発生が見られた場合には、早急にブラシンフロアブル等の予防・治療効果のある薬剤を散布する。
（４）備　　考　・BLASTAMの情報　、薬剤感受性検定結果を当センターホームページ（HP）に掲載中。

２　水稲　斑点米カメムシ類

（１）発生予想　　発生量：**多い**
（２）根　　拠　・７月中旬の雑草地におけるすくい取り調査での発生量はやや多い(平年比144.1％：成幼虫数)。（＋）
・向こう１か月の平均気温は高く、降水量は平年並。（＋）
（３）対　　策　・穂ぞろい期に斑点米カメムシ類が水田内で見られる場合は、乳熟初期（出穂期７～10日後）までにＭＲ．ジョーカーＥＷ、スタークル液剤、スタークルメイト液剤10等を散布する。
・防除後も斑点米カメムシ類が見られる場合は、７～10日間隔で１～２回の追加散布を行う。
（４）備　　考　・植物防疫ニュースNo.４（水稲・斑点米カメムシ類）を当センターHPに掲載中。

３　いちご　炭疽病

（１）発生予想　　発生量：**やや少**
（２）根　　拠　・現在の発生ほ場率は少ない。（－）
・向こう１か月の平均気温は高く、日照時間は平年並。（＋）
（３）対　　策　・水滴の飛散等で伝染するので、頭上かん水は避け、できるだけ水の跳ね返りのないかん水を行う。
・風通しを良くするとともに、茎葉のぬれ時間が長くならないよう、かん水はできるだけ晴天日の午前中に行い、曇雨天日や夕方のかん水を控える。
・発病してからの防除は困難なので、予防を主にベルクートフロアブル、アントラコール顆粒水和剤等をローテーション散布する。
・発病株や感染が疑われる株は早急に取り除き、ほ場外で適切に処分し、速やかにサンリット水和剤またはゲッター水和剤等を散布する。
（４）備　　考　・薬剤感受性検定結果を当センターHPに掲載中。

４　いちご　うどんこ病

（１）発生予想　　発生量：**やや少**
（２）根　　拠　・現在の発生量は平年並(平年比61.3％：ほ場率)。（±）
・向こう１か月の平均気温は高い。（－）
（３）対　　策　・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な肥培管理やかん水を行う。
・予防を主体にベルクートフロアブル、アフェットフロアブル等を散布する。
（４）備　　考　・高温期には菌の活動が抑えられ病徴が見えにくくなるが、菌は残存しているので注意する。

5　いちご　ハダニ類

（１）発生予想　　発生量：**平年並**

（２）根　　拠　・現在の発生量はやや少ない(平年比54.7％：ほ場率)。(－)
　　・向こう１か月の平均気温は高い。(＋)

（３）対　　策　・雑草はハダニ類の発生源となるため、除草を徹底する。
　　・苗による本ぽへの持ち込みを防ぐため、育苗での防除を徹底する。
　　・育苗期は気門封鎖剤やトクチオン乳剤等を活用し、本ぽ定植後に使用可能な有効薬剤を温存する。

（４）備　　考　・トクチオン乳剤の使用時期は「収穫75日前まで」なので散布時期に注意する。
　　・薬剤感受性検定結果を当センターHPに掲載中。

6　大豆・野菜類（いちご・トマト・なすなど）・花き類　ハスモンヨトウ

（１）発生予想　　発生量：　**多い**

（２）根　　拠　・７月第３半旬までのフェロモントラップへの誘殺数はやや多い。(＋)
　　・向こう１か月の平均気温は高い。(＋)

（３）対　　策　・定期的にほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
　　・施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。
　　・ハスモンヨトウ幼虫は、齢期が進むと被害が大きくなる上に薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢のうちに薬剤防除を行う。

7　野菜類（いちご・トマト・なすなど）・花き類　タバコガ類

（１）発生予想　　発生量：**平年並**

（２）根　　拠　・７月第３半旬までのフェロモントラップへの誘殺数はやや少ない。(－)
　　・向こう１か月の平均気温は高い。(＋)

（３）対　　策　・発生初期にプレバソンフロアブル５<適用作物:トマト、なす等>[ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ]やアニキ乳剤<適用作物：トマト、なす、きく等>[ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ]等で防除する。
　　・施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。
　　・植物組織内部に食入するため､被害果実はほ場外に持ち出して適切に処分する。

（４）備　　考　・果実や花、頂芽などに寄生するため、防除が遅れると被害が大きくなる。寄生されやすい部位をこまめに観察する。

8　その他の病害虫

		現　況	発生予想			現　況	発生予想
水　稲	縞葉枯病	やや多	やや多	ね　ぎ	さび病	やや多	平年並
トマト	コナジラミ類	少	やや少	な　し	黒星病	平年並	平年並
な　す	アザミウマ類	やや少	平年並	き　く	ハダニ類	平年並	やや多

☆農薬は適正に管理し、正しく使いましょう！
☆同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。
☆短期暴露評価の導入に伴う農薬の使用方法の変更に注意して下さい！

１か月気象予報（予報期間７月１５日から８月１４日　７月１３日気象庁発表）

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう１か月の平均気温は、高い確率６０％です。週別の気温は、１週目は高い確率７０％、２週目は平年並の確率５０％です。３～４週目は平年並または高い確率４０％です。

	低い（少ない）確率	平年並の確率	高い（多い）確率
○気　温	１０％	３０％	**６０％**
○降水量	２０％	**４０％**	４０％
○日照時間	４０％	**４０％**	２０％

NEWS & INFORMATION

○県では、農薬による事故等の発生防止を図るため、６月から８月の３か月間を「農薬危害防止運動期間」とし、農薬の適正使用等について啓発活動を行います。

詳しくは農業環境指導センター(Tel 028-626-3086)までお問い合わせください。
病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html）でもご覧になれます。